

マレーシア留学・現地調査案内 2 特集にあたって*

篠崎香織

本特集では前号に引き続き、マレーシア留学および現地調査について案内を行う。

加藤優子「マレーシア国民大学(UKM)留学案内」は、UKMにおける学部大学院への入学・留学申請手続きと、語学講座の受講手続きを紹介する。UKMに関しては、研究機関への所属申請手続きと図書館について、前号ですでに上田達氏より詳細な案内をいただいた。UKMはよく留学先に選ばれるため、詳細な情報を提供した方がよいと考え、UKMに関しては当初から加藤氏と上田氏に執筆をお願いしていた。だが諸般の事情により、加藤氏の原稿を前号で掲載することができず、今号で掲載することとなった。加藤氏は医療・出産を事例として、近代化を経験したマレー農村の社会史の構築を試みている。

今号では、この1、2年の間にフィールドに密着して調査を行った方々にお話し、最新のフィールド調査事情を提供いただいた。それがすなわち、信田敏宏「オラン・アスリを対象とした現地調査について」、河野元子「トレンガヌ州での現地調査案内」、高村加珠恵「クランタン調査案内」、山本博之「サバ(コタキナバル)調査案内」である。各執筆者には、調査の際にコンタクトを取ることになりうる政府機関へのアクセスや各地の資料所蔵機関に関する情報に加え、現地を歩く上で有用と思われる様々な情報を、執筆者の関心に引き付けて提供していただいた。信田会員は開発とイスラム化におけるオラン・アスリ社会の変容を、河野会員はマレー漁村のポリティカル・エコミーを、高村会員は国境と華人性を利用してマレー人マジョリティの社会で生きる華人を、山本会員はサバにおける連邦・州関係と民族意識をそれぞれ研究テーマとしている。

マレーシアで正式に調査を行うには調査許可証が必要であり、それがないと利用できない資料所蔵機関も多い。一方、隣国のシンガポールでは、主な資料所蔵機関を利用するうえで調査許可が特に求められることがなく、外国人や部外者が資料にアクセスしやすい。それらの資料の中には、マレーシアをはじめとした周辺諸国の行政文書や新聞・雑誌も少なからず含まれている。戸田賢治「シンガポールにおける資料収集と留学案内」は、シンガポールを研究対象とする会員に対してだけでなく、周辺地域を研究する会員に対しても有用な情報を提供してくれるであろう。新しい情報として、2005年6月に開館した国立図書館に関する情報がある。戸田会員は、シンガポール華人の政治を言語と社会という視点から捉えるべく、現在シンガポールで長期調査を行っている。

* この特集は、前号に引き続き、篠崎香織会員の提案により、企画段階から編集作業まですべて篠崎会員が担当したものです。会員のみなさんからのこのような企画を歓迎します。(編集部)